

安心のネットワーク

**NOSAI**

# 病害虫防除指導報

第364号 令和3年4月20日

発行

秋田県農業共済組合  
北秋田山本支所

☎0185-54-5540

## 1. 育苗期いもち防除～本田葉いもち初期防除について

### 1) 育苗期防除の徹底

①育苗施設への伝染源の持ち込みを避けましょう。

②**育苗期のいもち病に効果があるのはビームゾルやベンレート水和剤のみ**です。

育苗箱施用剤を播種時散布しても育苗期のいもち防除を兼ねることはできません。

【各種箱施用剤の苗の葉いもちに対する防除効果（秋田農試）】

供試薬剤	処理時期	処理量（／箱）	発病苗率（%）
A 粒剤	播種時	50g	94.7
B 箱粒剤	播種時	50g	85.2
C 箱粒剤	播種時	50g	77.3
ビームゾル	緑化始期	500ml	0.3
無処理			99.0

【育苗期いもち防除剤】

農薬名	使用時期	箱当たり散布量
ベンレート水和剤	播種時～播種7日後頃	500倍液 500mL 1,000倍液 1L
ビームゾル	緑化始期	500倍液 500mL

### 2) 本田葉いもち初期防除の徹底（葉いもち育苗箱施用剤等）

①葉いもち防除の効果の持続期間は7月中旬ころまでです。

②育苗箱施用剤は薬剤の種類によって使用時期が異なるので注意してください。

③床土混和、播種時覆土前処理専用剤があります。

### 3) 葉いもち多発時の緊急防除

- ①移植後は隨時ほ場を観察し、早期発見に努めましょう。
- ②持ち込みによる発病ほ場では薬剤の防除効果が十分に発揮されないため、病斑を確認した場合はただちに予防剤と治療剤の混合剤（プラシン剤またはノンプラス剤）の散布を行ってください。その後、発生状況に応じてビーム剤を追加散布してください。

## 2. 水稻初中期害虫の防除について

### 1) イネミギワバエ (イネヒメハモグリバエ)

産卵は水面に垂れて浮かんだ葉に多く行われるので、深植えや移植後の深水は産卵を誘発します。被害は沿岸部で多い傾向があり、5月下旬～6月上旬に急激に現れます。



前年被害が大きかった場合は、次表の育苗箱施用剤で防除します。育苗箱施用剤を使用しなかった場合で産卵数が多い時は、茎葉散布剤や水面施用剤で防除を行います。

▲イネミギワバエ (イネヒメハモグリバエ)  
～成虫と卵～

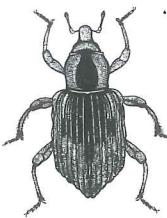
#### 【イネミギワバエの防除法】

使用方法	農薬名	散布量または希釈倍数	散布時期
育苗箱施用	スタウトパディート箱粒剤 ルーチンデュオ箱粒剤 ルーチンパンチ箱粒剤	50 g／箱	床土混和または播種時覆土前～移植当日
	デジタルミネクト箱粒剤 ブイゲットグランドオンコル粒剤 ブイゲットフェルテラ粒剤 プリンス粒剤 ルーチンアドスピノ箱粒剤 D r .オリゼフェルテラ粒剤	50 g／箱	移植 3日前～移植当日
	グランドオンコル粒剤 パディート箱粒剤 フェルテラ箱粒剤	50 g／箱	移植当日
	ガードナーフロアブル	100倍 [500mL/箱]	移植 3日前～移植当日
	エルサン乳剤 スミチオン乳剤 トレボン粉剤DL	2,000 倍 [100L] 2,500 倍 [100L] 3 kg/10a	第1世代 5月中～下旬 第2世代 6月中～下旬
水面施用	トレボン粒剤	2～3kg/10a	

### 2) イネミズゾウムシ・イネドロオイムシ (イネクビボソハムシ)

畦畔沿いに加害が多く、加害が激しい場合は生育が抑えられて減収します。育苗箱施用剤、育苗箱かん注剤、側条施用剤による防除は前年6月の食害株率が90%以上となった場合に行ってください。また、水面施用剤による防除は6月上旬に越冬後成虫が0.3頭／株（食害株率90%以上に相当）以上の場合に行います。

イネドロオイムシは早植えや生育がよい水田で産卵が多く、山間、山沿地や風当たりが少ない水田で被害が大きくなります。6月上～中旬に1株当たりの卵塊数が0.5卵塊を超える場合は茎葉散布剤で防除を行ってください。



▲イネドロオイムシ  
(イネクビボソハムシ)の卵塊

▲イネミズゾウムシの成虫

#### 【育苗箱処理によるイネミズゾウムシ・イネドロオイムシの防除法】

使用方法	対象害虫	農薬名	散布量または希釈倍数 [散布液量]	散布時期
育苗箱施用	イネミズゾウムシ	オンコル粒剤5 ガゼット粒剤	40g/箱	移植3日前～移植当日
		グランドオンコル粒剤	50g/箱	
育苗箱施用	イネミズゾウムシ・ イネドロオイムシ	パディート箱粒剤 フェルテラ箱粒剤 ワンリード箱粒剤08	50g/箱	床土混和または 播種時覆土前 ～移植当日
		ヨーバルトトップ箱粒剤		播種時覆土前 ～移植当日
		ダントツ箱粒剤 バリアード箱粒剤	25～50g/箱	移植3日前～移植当日
		アドマイヤーCR箱粒剤 アルバリン箱粒剤 スタークル箱粒剤 ダントツ粒剤 デジタルコラトップアクタラ箱粒剤 デジタルミネクト箱粒剤 箱大臣粒剤 プリンス粒剤 ルーチンバリアード箱粒剤		移植3日前～移植当日
		アドマイヤー箱粒剤 ゼロカウント粒剤		
		ヘッド顆粒水和剤	50g/箱	
		アドマイヤー顆粒水和剤	500倍 [500mL/箱] 1,000倍 [1,000mL/箱]	播種時
		ガードナーフロアブル	500～1,000倍 [500mL/箱]	
		ダントツ水溶剤	100倍 [500mL/箱]	移植2日前～移植当日
		バズ顆粒水和剤	200～400倍 [500mL/箱]	
			1,000倍 [500mL/箱]	移植3日前～移植当日

### 3. 斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ）対策の水田内除草について

本県の主要な加害種はアカスジカスミカメです。水田内にイヌホタルイ、シズイ等のカヤツリグサ科雑草やノビ工類が多発するとアカスジカスミカメの水田内への侵入を助長します。そのため、水田除草剤の適正使用により水田内の除草を徹底します。一発処理剤は代かき日から10日以内に使用（ただし、ラベルに記載された使用時期に従うこと）し、散布時は田面の高いところでも水深5cmを確保します。また、水田除草剤散布後の7日間は止水を行い、かけ流しや排水路へ落水はしないようにしましょう。

### 4. 水稲育苗終了後に野菜類・花き類を作付けする場合の注意事項について

近年、水稲育苗終了後のハウスに作付けされた野菜類において残留農薬基準値を超過する事例が発生しています。また、水稲育苗終了後に作付けされた花き類において、水稲育苗時に施用した農薬の影響による生育障害が発生した事例も報告されています。水稲育苗箱への薬剤処理を行う際には、次の点に注意して実施しましょう。

①薬剤の床土混和および播種時覆土前に使用する場合は育苗ハウスの外で作業し、薬剤や薬剤を混和した床土を育苗ハウス内にこぼさないようにする。

②薬剤のかん注および散布時は、育苗箱周辺へ薬剤を飛散させない。また、水稲育苗箱の下に不透水性無孔シートを敷いたり、プール育苗に取り組んだ場合は、次の点に注意する。

○水稲育苗箱の下に不透水性無孔シートを敷いた場合

- ・育苗期間を通じて無孔シートを破らないようにする。
- ・無孔シートを撤去する時は、無孔シート上の水や土壌などを育苗ハウス内にこぼさないようにする。

○プール育苗に取り組んだ場合

- ・育苗終了時にできるだけ水を残さないように管理する。
- ・育苗終了後にプール内に残った水や土壌などを育苗ハウス内にこぼさないようにする。

○余り苗等の処分

- ・余り苗等の廃棄する苗や育苗箱に使用した培土は、薬剤の残留が懸念されるため、野菜類や花き類を作付けするハウスやほ場に持ち込みず、適正に処分する。



大豆共済



近年、台風や豪雨など自然災害が多発しています。もしもに備えて大豆共済に加入しましょう。掛金の55%を国が負担しています。